

第2回 津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会

日 時 令和4年9月27日（火）午後2時から
場 所 津市センターパレスホール

事 項 書

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報 告

- ・これまでの取組経過

4 議 題

- （1）未来ビジョンの概要 中間案について

- （2）エリアプラットフォームの構成、取組実施体制について

5 その他連絡事項

- ・今後の予定等

これまでの取組経過

第1回策定委員会の結果(振り返り)

第1回策定委員会の結果

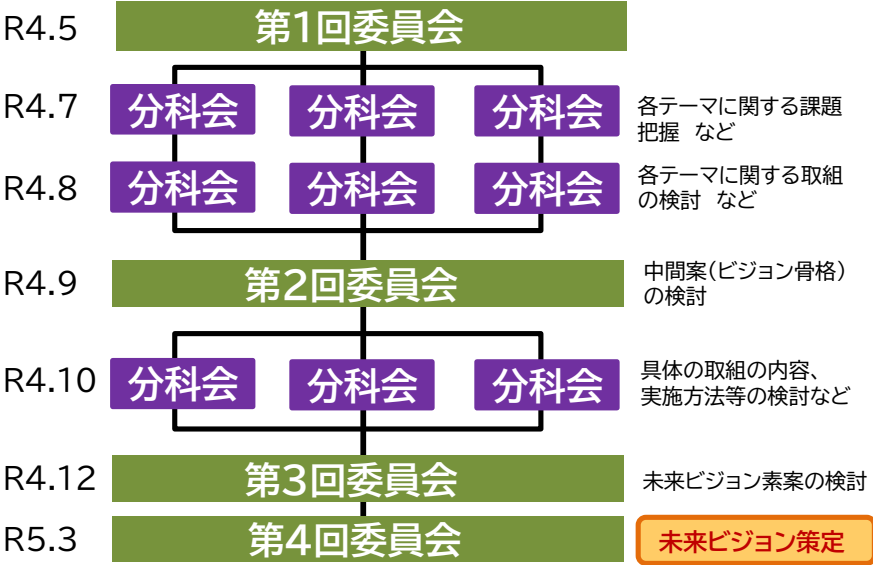
第1回策定委員会

【開催日】
5月26日(木)

○議 題

- (1) 委員長・副委員長選出
- (2) 委員長・副委員長挨拶
- (3) 今後の進め方等について
 - ア 未来ビジョン策定に向けての進め方について

【スケジュール】



- イ 大門・丸之内地区の現状分析・課題について
令和3年度基礎調査結果に基づき報告

- (4) 大門・丸之内地区への思いについて
各委員から、大門・丸之内地区への思いについて発言

- ウ 分科会での検討テーマについて
3つの観点を検討テーマとする分科会を設置

観点1	にぎわいの創出や商業発展、地域資源の有効活用など、地域の強みを活かす観点	経済活性化、地域資源の活用分科会
観点2	道路再編やICTの活用、未来の都市を考える場づくりなど、これまでの枠にとらわれない柔軟な観点	未来志向の都市づくり分科会
観点3	土地・建物の集約化や建築物の建替え・快適な居住空間の創出など、将来的な都市計画の観点	エリアの価値向上分科会

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第1回分科会での議論

第1回分科会

【開催日】

7月19日(火)未来志向の都市づくり分科会
7月20日(水)経済活性化、地域資源の活用分科会
エリアの価値向上分科会

○議 題

- (1)分科会長・分科会副会長選出
- (2)分科会長・分科会副会長挨拶
- (3)分科会の役割及び進め方等について
事務局より説明
- (4)大門・丸之内地区の将来像について
分科会員同士で意見交換
(地区の将来像の検討、地区の課題の掘り下げ)

津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会分科会構成

分科会名		経済活性化、地域資源の活用	未来志向の都市づくり	エリアの価値向上
検討テーマ		にぎわいの創出や商業発展、地域資源の有効活用など、地域の強みを活かす観点	道路再編やICTの活用、未来のまちを考える場づくりなど、これまでの枠にとられない柔軟な観点	土地・建物の集約化や建築物の建替え・快適な居住空間の創出など、将来的な都市計画の観点
委員構成	まちづくり会社・団体	津市大門大通り商店街振興組合	◎津商工会議所	○株式会社まちづくり津夢時風
		津市大門商店街商業協同組合		◎公益社団法人津青年会議所
		丸之内商店街振興組合		
	自治会		養正地区自治会連合会	敬和地区自治会連合会
	企業	株式会社津センターパレス	岡三証券株式会社	株式会社百五銀行
		◎株式会社津松菱	株式会社NTTファシリティーズ	三交不動産株式会社
		OHOTEL 津 Center Palace	○三重交通株式会社	
	公募	公募委員	公募委員	公募委員
		公募委員	公募委員	公募委員
		公募委員	公募委員	公募委員
	行政		国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所	
			三重県道路企画課	三重県都市政策課
		津市都市計画部	津市都市計画部	津市都市計画部
		津市商工観光部	津市商工観光部	津市商工観光部
	人数	11人	12人	11人

※◎分科会長 ○副分科会長

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第1回分科会での議論

【(4)大門・丸之内地区の将来像について

分科会員同士で意見交換(地区の将来像の検討、地区の課題の掘り下げ) に関する主な意見】

経済活性化、地域資源の活用分科会

① 地域らしさ、場が持つ力を活かした魅力の創出

- ・大門・丸之内地区の歴史・文化、空間の持つ力を最大限に引き上げ、観光客や市民が楽しめる魅力の創出
- ・公園、広場空間の整備や各種イベントなど、ハード・ソフト両面からの魅力の向上

② 若者・子どもを引き込むきっかけ・仕掛けづくり

- ・若者や子どもが行きたいと思えるようなきっかけ・仕掛けの提供
- ・観音公園の遊具・ステージ設置などの整備、子どもが興味を持つイベントの開催
- ・まちづくりの担い手として学生を取り込む活動の実施

③ 空き地・空き家・空き店舗などの資源の活用

- ・空き店舗・空き地・空き家のリノベーション等による歩いて暮らせる、楽しいまちの形成
- ・空き地の再編による来街者向けの駐車場の整備、利便性の高い移動手段の提供

④ 店舗・団体・まちの一体化

- ・事業者、各種市民活動団体、民間企業など、地区内外の参加によるまちづくりの推進
- ・予算等の継続性の確保などによる持続可能なまちづくりの推進

⑤ 伝わりやすい情報発信

- ・多様な媒体によるきめ細かで定期的な情報発信

未来志向の都市づくり分科会

① 快適に歩き、回遊できる、歩きたくない、移動しやすいエリアの形成

- ・歩きやすい道づくり、道路や沿道の魅力化など、歩きたくないエリアの形成
- ・津駅や津新町からのアクセスの向上、エリア内のバス停や公共駐車場から快適に移動できる案内、新しいモビリティの導入

② 人が滞在するエリア、人と人が出会い交流できるエリアの形成

- ・時間を過ごしてもらえる様な場所や魅力の創造
- ・大門・丸之内に来れば誰かに会える、交流できる場や機会の創出
- ・年齢、性別、国籍、居住地、障害の有無などに関わらず、多様な人が滞在し、楽しみ、学び、活動できるなど、誰でも受け入れる環境づくり

③ 歴史を学びながら、地域のよさの発信

- ・お城公園、津観音、観音公園等の歴史資源を活用し、地域の歴史や成り立ちを学ぶことができる機会の提供
- ・津市の良さを再認識し、SNSなどで発信したくなるような場や仕掛けづくり

④ 安全・安心・清潔を大切にしたいエリアの形成

- ・防災・防犯・交通安全等など、安全に安心して住んだり、訪れたり、活動できるエリアの形成
- ・清掃などの美化、公園や道路の緑の管理、季節ごとの特徴的な花の植栽など、清潔で快適なエリアの形成

⑤ 未来技術を積極的に導入し、活用するエリアの形成

- ・にぎわいづくり、歴史の活用、安全安心、快適な移動などにおいて、未来技術を先取りし、歴史と未来が調和したエリアの形成

⑥ 道路空間の有効活用

- ・自動車、自転車、歩行・回遊、新しいモビリティなどによる将来に向けた道路空間の活用方法の検討

⑦ 県内外から観光客が集まるエリアの形成

- ・お城公園、津観音、観音公園を活用して、三重県、津市を代表する観光エリアの形成
- ・公園や広場で食べる、飲食店で食べる、食歩きができるなど、様々な楽しみながらの飲食

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第1回分科会での議論

【(4)大門・丸之内地区の将来像について
分科会員同士で意見交換(地区の将来像の検討、地区の課題の掘り下げ) に関する主な意見】

エリアの価値向上分科会

① 日常的な滞在人口の増加

- ・企業、大学、専門学校、学習塾、店舗などの誘致により日常的に地区にいる人を増やす
- ・空きテナントや空き店舗を活用し、色々な人が色々な関わりができる場づくり

② 働く人、近所の人などが訪れ、滞在できるエリアの形成

- ・市内や地区周辺から気軽に行け、ピクニック、散策、買い物、食などができるエリアの形成(川辺・公園・芝生広場など)、レンタサイクル、キックボードなどの移動手段の提供、案内サインの設置、ガイドの実施、地域の歴史・文化などの資源を活用したイベント開催

③ 若者が集い、出会い、交流し、楽しむことができるエリアの形成

- ・若者の学びの場、学生と社会人の出会いの場づくり
- ・若者が地区に関わることができる場、機会づくり

④ 魅力的な空間を整備し、歩きたくなるエリアの形成

- ・歩きたくなるように「見て」、「触れて」、「憩う」ための場づくり
- ・緑化、清掃などで屋外空間の日常的な管理、水と緑の魅力を向上
- ・商店街で行燈の設置などの景観づくり、ユニバーサルデザイン

⑤ 子どもと子育て世代にとって便利なエリアの形成

- ・託児所や保育所の設置、放課後の子ども支援、外国人向けの日本語教室、学習塾の実施など、子どもをきっかけに地区へ人が来る仕掛けづくり

⑥ 目的地となるコト・場の創出

- ・「歴史・文化を活かす」、「緑、芝生広場などでピクニックできる場をつくる」、「学びの場、楽しめる場をつくる」、「対話、出会いができる場をつくる」など、ここに来る目的を作る
- ・まちプレイヤーとして、色々な人が関われる場、活躍できる場をつくる

⑦ 暮らす場としての魅力の向上

- ・暮らしの場として、高齢者向けには医療、買い物などの生活インフラの維持、子どもや子育て世代へは安心・安全、子育て支援の充実、若者にはおしゃれさ、楽しみなどの魅力の充実

経済活性化、地域資源の活用分科会

未来志向の都市づくり分科会

エリアの価値向上分科会

第1回の分科会の意見を取りまとめ、5つの「まちづくりのコンセプト(案)」に整理

人が集い、交流、
活動できるまち

楽しく歩いて
回遊できるまち

魅力空間を
楽しめるまち

魅力情報が
発信されるまち

持続可能な
まち

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第1回分科会～第2回分科会

【勉強会の実施】

第1回分科会～第2回分科会の間に、インプットの間として、有志による2回の勉強会を実施

○第1回勉強会

- ・都市計画制度について、基礎的な内容の解説
- ・過去の取組の共有(津市中心市街地活性化基本計画等)
- ・他市事例の紹介(UR都市機構より)

○第2回勉強会

- ・大門・丸之内地区の地図を俯瞰して見た評価ポイントと課題の検討
- ・まちづくりに都市計画手法を用いる場合の例の紹介

【市民参画の取組】

別添資料参照

- (1)未来ビジョン策定について語り合う場として「大門・丸之内地区 未来のカタリバ」を開催（8月21日(日) 14名参加）
- (2)広く市民意見を募るため、各所への意見箱設置及びホームページの意見フォームでの意見募集（意見28件 R4.9.22現在）

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第2回分科会での議論

【(1)未来ビジョンの構成案について(2)まちづくりのコンセプト(案)について に関する主な意見】

- 将来像には、イメージ図やイラストなどを用いてみんなが共有しやすいものとするのがよい。
- 将来像やまちづくりのコンセプトが重要であるので、事務局と策定委員会委員、分科会員との議論を大切にしていける。
- 策定主旨をみんなで共有し、一つの方向に向かっていけるようにしたい。
- コンセプトに大門・丸之内らしさが見える方がよいので、背景やストーリーを丁寧に説明するといいい。
- 大門・丸之内らしさとは、津城丸之内、津観音大門と言われるように、津城や津観音があること、そのような歴史を考えることが津のストーリーになると思う。
- これから的大门・丸之内における「にぎわい」の姿、どんな人でにぎわいをつくるかなどを考えていかないといけない。
- コンセプトの中でも「観光客の増加」や「滞在人口の増加」といった軸を決めて議論してはどうか。
- 「魅力情報が発信されるまちをめざす」と「持続可能なまちをめざす」は、他の3つのコンセプトと性格が異なるので、横串を刺すような考えとするのがよい。
- これまでの取組も検証しながら未来ビジョンを考えていきたい。
- 地区の各エリア(商店街、業務集積地、住宅地…)で特性が異なるので、それぞれで将来像を提示してもいいのではないか。
- 若者から高齢者まで広い世代を視野に入れる必要がある。
- みんなで共感して官民で取り組めるよう、‘新しい’ ‘津らしい’ キーワードを入れ込むとよい。

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第2回分科会での議論

【(3)大門・丸之内地区の未来に向けた施策・取組の提案と深掘り

- ・まちづくりのコンセプト(案)をもとに、施策や取組案の意見交換
- ・次年度以降速やかに開始できる取組について検討(社会実験・美化活動など) に関する主な意見】

経済活性化、地域の資源活用分科会

①人が集い、賑わう場の創出

- ・大門・丸之内地区の施設、外部空間を発表の場として整備するとともに、イベントの主催・コーディネート者を養成する。
- ・津センターパレスのホールなどを活用して若者が集まる、滞在する取組をする。
- ・なぎさまちに娯楽施設を整備するなどして魅力を高め、津駅～中継地点としての大門・丸之内地区～なぎさまち間の交通の円滑化を図る。
- ・大門・丸之内地区でマルシェを開催し、将来的には企画運営を地元で進めることができるようにする。
- ・VRやARといったバーチャルの活用や、趣味やサブカルチャーの文化を活用した若者を集める取組を行う。

②既存資源(空き家・空き店舗・空き地)の活用

- ・空き店舗、空き家の情報と所有者の売却・賃貸意向を調査し、見える化により不動産の流動化を図る。
- ・空き物件情報をSNSなどで発信し、若者など新規出店者とテナントとのマッチングを行う。
- ・空き物件を活用して商業・業務を営む事業者に対する支援(賃料・固定資産税の補助)を行う。
- ・土地区画整理事業などにより、遊休地を集め、住商一体型の再開発事業など、有効活用を検討する。

③商店街活動の支援

- ・これまで取り組んできた商店街活動のテーマ(文化と健康)や、各種イベント、アーケード等の施設維持等の取組を継続して支援する。
- ・商店街で空き物件を借上げ、サブリース化して商店の集積を図る活動を支援する。
- ・リノベーション店舗やチャレンジ店舗を供給するなどして、若者のものづくり、販売などのチャレンジを支援する。
- ・来街者向けの空間整備(アーケード、人工芝上の憩いの空間)を行う。
- ・大門大通り商店街の車の乗り入れやコインパーキングの無料化、津駅から三重会館間のバス無料化など、活性化に向けた社会実験を行う。
- ・自転車のシェアやレンタルによるエリア内の移動促進を図る。

④景観・美観の形成

- ・お城公園、お城前公園など、津城を活かした景観を形成する。
- ・これまでの歴史・景観資源に加え、川・堀などの水辺空間を整備し回遊性を高める。
- ・津城の復元に向けた活動を団体とともに連携して進める。
- ・国道23号沿いの植栽などをVSP(ボランティア・サポート・プログラム)で立ち上げる。
- ・エリアプラットフォーム有志による美化活動を継続し、人のつながりを広げ、まちづくり活動の土台とする。
- ・害鳥被害の低減の取組として、イベント仕立てで鷹匠を活用するなど、津の歴史や風情にも合った取組を行う。

⑤子育て・居住環境の向上

- ・津市全体の子育てのしやすさを高め、特に、大門・丸之内地区においても魅力を高める。
- ・入居を助成することで、子育て世代を誘い込む。
- ・公園の再整備により、居心地のいい、便利で清潔な空間を提供する。その際、防災面の備えにも配慮する。

⑥働く場の誘致・創出

- ・起業・リモートワークの拠点として津センターパレスの空床を活用する。そのためには、新しいアイデアや連携が生まれるオシャレで魅力的な空間や人材が必要である。
- ・福利厚生の一環で企業のまち歩きを促進する。

⑦合意形成によるまちづくりの推進

- ・自分たちのまちは自分たちで維持・保全・発展させるという意識を醸成する。
- ・ブロックごとに小さなプロジェクトを立ち上げる。
- ・サークル活動やボランティア(VSP:ボランティア・サポート・プログラム)の取組を促進する。

⑧情報発信

- ・歴史文化や祭りなど、地域の温かさを感じられる情報発信が必要である。

<オブザーバー意見>

- ・大門・丸之内地区らしさという着眼点で多くの意見が出ている。今後の具体化にあたっては、誰が何のためにするのかという点に留意して議論していく必要がある。
- ・津市の人にとって大門・丸之内地区が心の拠り所になっていると感じる。多くの人の心に響く未来ビジョンになってほしい。
- ・大門・丸之内地区が多くの市民に役に立つ、頼りにされる、拠り所になる、そんなまちになればと思う。

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第2回分科会での議論

【(3)大門・丸之内地区の未来に向けた施策・取組の提案と深掘り

- ・まちづくりのコンセプト(案)をもとに、施策や取組案の意見交換
- ・次年度以降速やかに開始できる取組について検討(社会実験・美化活動など) に関する主な意見】

未来志向の都市づくり分科会

①地区内外の移動利便性の向上

- ・路線バスの周知、バス停への愛称づけ、バス利用者への特典付与等による利用促進
- ・大学と大門・丸之内地区とのアクセス利便性向上(公共交通、次世代モビリティ)
- ・津駅・津新町駅・なぎさまちと大門・丸之内地区をつなぐ次世代モビリティの導入
- ・地区内の移動におけるグリーンスローモビリティ、キックボード、コムスなどの次世代モビリティの導入
- ・高齢者を中心とした地区外からの来訪、地区内移動のためのデマンド交通の導入
- ・地域MaaSの導入

②歩きやすい、歩きたくなる環境づくり

- ・地域の住民・事業所の参加、有志団体等による道路や公園の美化活動・花植え
- ・安全性確保のための見回り活動、防犯カメラの設置
- ・夜道の安全性確保のための駅からのアクセスや商店街での行燈の設置
- ・店舗利用促進のための多様なサービス実施、他地区との合同したイベント等の開催

③未来に向けた新しい道路の活用

- ・商店街道路の公園化(芝生広場、遊具、ベンチ、Wi-Fiなどのあるくつろぎスペース)
- ・津観音付近の道路におけるマルシェ等の開催(月1回程度)
- ・新モビリティ・自動運転等の通行路としての活用(フェニックス通りの1車線など)

④人が集まる・回遊する仕掛けづくり

- ・eスポーツ、VR、メタバースの活用、そのための高速通信環境の整備
- ・フォトジェニックな空間、写真を撮りたくなるような花壇、花モニュメントを設置
- ・地域の金融機関と連携した、金融リテラシー教育の場づくり
- ・子ども、若者、大学生が集まる場所・機会づくり
- ・飲食店・名店の集積、食べ歩きスポットづくり、ランチの活性化
- ・津観音及び周辺の活用

⑤居住の場としての地域づくり

- ・住宅の整備促進
- ・医療福祉の充実、コンビニ・食品スーパー等の立地促進
- ・子育てに優しいまちづくり

⑥空き地・空き家・空き店舗などの活用

- ・空き地・空き家の所有者に対する意向調査を実施し、結果を可視化する。
- ・所有者と出店希望者のマッチングのための窓口の設置
- ・まちづくり会社による空き店舗のリノベーション・サブリース
- ・空き地・空き店舗を活用して、普通ではない、「突き抜けたこと」を行う。
- ・空き店舗等に事業所・店舗を誘致するための支援制度の創設。
- ・防災性向上、市街地整備、遊び場確保課題解決のための空き地・駐車場の活用

⑦情報の効果的な活用・発信

- ・ドローンを活用した空中からの映像の配信
- ・各種情報サイトと連携した情報掲載(グーグルマップや乗換検索サイト)
- ・施設混雑情報、バスロケ情報など、AIを活用したデジタルサイネージの設置
- ・地域HP・地域アプリの構築
- ・各種マスメディアへの取材依頼

<オブザーバー意見>

- ・当地区らしさを掲げ、ターゲットを意識してまとめていくといいと思う。
- ・どういうエリアを目指すのか、どんなまちがいいかといった将来像を自分事として議論していけると良い。
- ・目指したい目標があって、だれがどう取り組むと目標に近づくのか、みんなに分かりやすく、自分たちで取り組めるような、心に響くビジョンになると良い。

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第2回分科会での議論

【(3)大門・丸之内地区の未来に向けた施策・取組の提案と深掘り

- ・まちづくりのコンセプト(案)をもとに、施策や取組案の意見交換
- ・次年度以降速やかに開始できる取組について検討(社会実験・美化活動など) に関する主な意見】

エリアの価値向上分科会

①魅力的な空間の形成

- ・街なかでも自然に触れられるように、岩田川、お堀などで水辺環境を整備する。
- ・津市や大門・丸之内のシンボルとして津城の再生や公園の再整備など、お城公園一帯を整備する。
- ・歴史的建造物の活用、景観づくり、ユニバーサルデザインに取り組みながら、食べ歩きなど、歩いて楽しめるまちづくりに取り組む。
- ・伊勢街道、津城跡、津観音の資源をつなぎ、回遊できる歩行空間を整備する。

②土地利用の検討

- ・商業エリア、住宅エリアなどの土地利用を明確化する。
- ・やわらかい区画整理等の手法により、街路の再編と大規模な病院などの施設を誘致できる敷地を確保する。
- ・地区計画や景観計画などのルール化も含めた将来のまちづくりを検討する。

③新たな拠点づくり

- ・敷地の集約化を図りながら、民間活力を導入し、市街地再開発手法などを使って医療、福祉、子育て、店舗、オフィス、住宅などの複合施設を整備するとともに、公園、歩行者専用道路を整備した災害にも強い新たな拠点を整備する。
- ・食品スーパーなどの誘致に向け、整備費や賃料の補助などの支援策を検討する。
- ・多種多様な催しができる街なかの憩いの場となるサード・プレイスとなる全天候型広場を整備する。
- ・誰もが利用するレクリエーション、スポーツ施設などの都市施設(都市機能)を整備する。
- ・学生がゼミやフィールドワーク、周辺企業との協働プロジェクトなどができる学生拠点を整備する。

④空き地・空き家・空き店舗の有効活用

- ・空き地・空き家・空き店舗を有効活用できるように、家主と交渉する空き家マッチングやリノベーションなどのコンサルティング、サブリース等を行う組織づくり(家守)を進める。
- ・空き家・空き店舗のリノベーションの勉強会や講座などを実施する。
- ・空き家等の有効活用の促進に向けた課税強化策などを検討する。

⑤魅力的なイベントなどの企画・実施

- ・国道23号やフェニックス通りの歩行空間を活かしたイベントを企画・実施するとともに、仮設のベンチやテーブルを設置する。
- ・昭和感など、既存空間イメージを活かした商店街などでの定期的なマーケット(市)を実施する。
- ・海や港が感じられるように、津観音境内での定期的な海産朝市などを実施する。
- ・津城や津観音の歴史的な価値を活かしたイベントを実施する。

⑥歩きやすい、歩きたくなる環境づくり

- ・歴史的建造物の活用、景観づくり、ユニバーサルデザインに取り組みながら、食べ歩きなど、歩いて楽しめるまちづくりに取り組む。
- ・伊勢街道、津城跡、津観音の資源をつなぎ、回遊できる歩行空間を整備する。

⑦アクセス道路の整備と交通手段の確保

- ・津城や津観音へ行きやすいように、国道23号等からのアクセス道路の再編整備と案内・標識サインを設置する。
- ・電動キックボードなどのシェアモビリティを導入し、津駅や津新町駅、なぎさまちに電動キックボードのレンタル・シェア拠点を設置する。

分科会での議論(中間案作成までの経過)

第2回分科会での議論

- 【(3)大門・丸之内地区の未来に向けた施策・取組の提案と深掘り
- ・まちづくりのコンセプト(案)をもとに、施策や取組案の意見交換
 - ・次年度以降速やかに開始できる取組について検討(社会実験・美化活動など) に関する主な意見】

エリアの価値向上分科会

⑧津・大門・丸之内らしさづくり

- ・伝統芸能、郷土芸能などの歴史・文化を活かした誇りの持てるまちづくりに取り組む。
- ・「はんぺい」など、歴史ストーリーを活かした新名物の展開にした練り物のまち津を推進する。
- ・実践的実験的な取組を推進し、県庁所在地として都会的なイメージを形成する。

⑨まちづくりへの市民意識の高揚

- ・市民のやる気を高めるため、清掃活動などのまちを綺麗にする取組などで大門・丸之内が好きになる人を増やす。
- ・継続的な取組を大切にする。

<オブザーバー意見>

- ・改めて大門・丸之内はみんなの心の拠り所であると感じた。
- ・短期、中期、長期に分け、議論を分けて絞っていくとよい。
- ・公共投資と民間投資の連携など、大きなストーリーができるとよいが、難しい場合は、エリアリノベーションをしてエリアとしての価値を高めていく方法がある。
- ・20年前から中心市街地が衰退してきており、津市も中心市街地活性化計画を策定するなど努力し、政策も実現してきたが、総合的に衰退が止まる状況ではない。
- ・今まで採用されなかったアイデア、他市の取組等がヒントになる。他市も長い時間をかけて整備を進め、変わってきている。継続して取り組むことが大切である。

経済活性化、地域資源の活用分科会

未来志向の都市づくり分科会

エリアの価値向上分科会

分科会での議論・意見をもとに、

「未来ビジョンの概要 中間案」

として整理

第1章 策定趣旨

- (1) これまでのまちづくりの経過・振り返り
- (2) 上位関連計画による大門・丸之内地区の位置づけ
- (3) 官民連携まちなか再生推進事業(国土交通省)
- (4) 未来ビジョンを策定する理由
- (5) 未来ビジョンの策定主体・範囲・期間

第2章 地区の概況

- (1)位置

(2)地区の概況

(3)地区の強みと弱み

(4)地区の課題

令和3年度基礎調査の結果を基に記載
(第1回委員会で報告済)

第3章 未来ビジョンが目指す将来像

- (1) 津市にとっての大門・丸之内地区の位置づけ
- (2) 大門・丸之内地区における将来像

第4章 まちづくりのコンセプト

- (1)コンセプトの考え方
- (2)まちづくりのコンセプト

第5章 将来像の実現に向けた取組

- (1)将来像を実現するための基本方針
- (2)将来像の実現に向けた 施策・役割分担・ロードマップ

【策定理由】過去の経過や第1回分科会・第2回分科会での意見も踏まえ、策定理由を整理

○大門・丸之内地区は、本市市街地の中心部に位置し、都心活動の南北軸となる国道23号、また陸の玄関口津インターチェンジ及び海の玄関口である津なぎさまちを結ぶ東西軸が結節し、バス交通が充実した交通の利便性が高いエリアで、地元民間企業の本社機能をはじめとする商業・業務施設や公共公益施設、津城跡や津観音などの歴史・文化施設など、多様な都市機能を有する本市の中心市街地である。

○近年、モータリゼーションの進展や郊外型の大規模商業施設の立地等を背景に、まちの賑わいや活力の低下がみられ、商業振興の観点から様々な取組がなされてきたが、商業面から人の流れを呼び戻すには至らなかった。その一方で、津市を本拠とする企業ビルの新築や建替えなどオフィス機能の集積が進むとともに、津センターパレスに新たなホテルがオープンするなど、時代の移り変わりとともに中心市街地エリアの機能が変化しつつある。

○当地区は、古くから津市の中心としての役割を担い、数々の名産を生み出すなど、津市の発展を支えてきた自負があり、今後も津市の中心であり続ける。

○多様な人材が集まり、エリアの将来像を明確にしたうえで、官民が連携して将来像の実現に向けて都市づくりに取り組むことが効果的である。

商業機能の低下

津センターパレス 閉業
商業機能は別へへ流出

センターパレスからダイエー撤退

オフィス機能の集積
新設コロナウイルス 感染防止策 実施

都心ディープの衰退
営業終了

ホテル津センターパレスの閉業

中心市街地の新たな展開

時代の移り変わりとともに、中心市街地エリアの機能が変化

官民が将来像を共有し、連携を図りながら未来を見据えた新しい大門・丸之内地区の都市づくりを進めるため、未来ビジョンを策定する。

【策定主体・範囲・期間】

○策定主体 「大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会」

○期 間 2023年度(令和5年度)から概ね20年間

○範 囲 三重会館前交差点を中心に、概ね半径500mの範囲(約58ha)(大門、丸之内、東丸之内、中央)

2040年頃の将来を見据えたまちづくりの構想を描く。

【分科会において共有された将来像のイメージ】

○人と人が出会い交流できるエリアとなっている

○働く人、近所の人などが訪れ、滞在できるエリアとなっている

○多様な世代が集い、出会い、交流し、楽しむことができるエリアとなっている

○若者・子どもを引き込むきっかけ・仕掛けづくりがある

○日常的な滞在人口が増加している

○県内外から観光客が集まっている

○快適に歩き、回遊できる、歩きたくない、移動しやすいエリアとなっている

○魅力的な空間を整備し、歩きたくない

○新技術を積極的に導入し、活用している

○道路空間が有効活用されている

○地域らしさ、場が持つ力を活かした魅力がある

○目的地となるコト・場がある

○空き地・空き家・空き店舗などの資源が活用されている

○安全・安心で清潔感のあるエリアとなっている

○暮らす場としての魅力が向上している

○子どもや子育て世代、高齢者世代にとって便利なエリアとなっている

○地域の魅力が情報発信されている

○地域の歴史を学ぶ機会が設けられている

○店舗・団体・まちが一体化している

今後の議論とあわせて整理を進め、イメージ図などを活用しながら分かりやすい将来像として記載予定

【コンセプトの考え方】将来像が実現したまちの姿を示す代表的な考え方を記載する。

【まちづくりのコンセプト】これまでの分科会での意見を取りまとめ、次の5つの「まちづくりのコンセプト」に整理。引き続き協議を重ね、必要な文言を作り上げる。

人が集い、交流、活動できるまち

楽しく歩いて回遊できるまち

エリア価値の※高いまち

魅力情報が発信されるまち

持続可能なまち

※「エリア価値の高いまち」は、第1回分科会を受けて「魅力空間を楽しめるまち」として整理したが、第2回分科会において暮らす場としての魅力や機能の向上も必要といった意見も多く出たため、楽しめるだけではなく価値全体が高いまちとして再整理

まちづくりのコンセプト

人が集い、交流、活動できるまち

楽しく歩いて回遊できるまち

エリア価値の高いまち

魅力情報が発信されるまち

持続可能なまち

将来像を実現するための基本方針

人が集い、交流、活動できるまちを実現するため、多様な世代の住民・来訪者による地域資源や強みを活かした様々な活動を推進する。

楽しく歩いて回遊できるまちを実現するため、道路空間の有効活用や新技術の積極的な導入を推進する。

エリア価値の高いまちを実現するため、地域らしさを楽しめる満足度の高いエリアの形成や、暮らしの場としての魅力・機能を高めるとともに、土地・建物の在り方の見直しを進める。

魅力情報が発信されるまちを実現するため、エリア内の多様な主体が様々な媒体を活用し、地区の魅力をより多くの市民・来訪者に伝える。

持続可能なまちを実現するため、安心・安全な環境づくりを進めるとともに、未来ビジョンの実現に向けて地区内外の様々な関係者が主体的・持続的にまちづくりに取り組む。

将来像の実現に向けた 施策・役割分担・ロードマップ

将来像の実現に向け、行政、企業、団体の役割分担のもと、官民が協働して取り組む。

短期 ~5年 ビジョン実現のため、今すぐ出来ることから始める。

(取組例)・大門・丸之内地区の活性化のための「専属チーム(職員)」の設置検討
・委員会・分科会等で出されたアイデア等の実験的な取組や情報発信等(令和5年度以降に国の予算を活用して実施予定)
(エリアプラットフォームで速やかに実施できるもの)
・エリアプラットフォームが主体的に取り組む事業や各構成団体の独自の取組のうち比較的短期間で開始できる取組
・長期的な都市づくりに向け、都市計画の変更や次期津市都市マスタープランへの反映に向けた取組

中期 5年~10年 未来ビジョンに位置付けたビジョンが着実に実行され、一定の成果が見えている。

(取組例)・委員会・分科会等で出されたアイデア等の実現につながる取組(例: AR(現実の風景などにコンピュータで存在しない画像などを表現する技術)による街並み再建や空き店舗のサブリース、実験的な取組の結果を受けた取組など)

長期 10年~20年 未来ビジョンで描いたまちの実現に向けて着実に進んでいる。

(取組例)・未来ビジョンに基づき、都市計画法の手法による地区の再編や土地利用の転換など、長期的な都市づくりの視点からの取組

第3回分科会に向けた検討

未来ビジョンの実現に向け、津市は、エリアプラットフォームの一員として、行政が果たすべき役割を担います。各社、各団体においても、それぞれの役割を担い、一丸となった取組をお願いします。

第2回分科会にて分科会員から提案された具体の事業や取組は、資料2-2のとおり

・津市においては、事業や取組の庁内横断的な検討を開始。

・第3回分科会では、資料2-2の事業や取組について、各構成組織での実施に向けて、役割分担やロードマップ(短・中・長)の協議を行う予定。

・委員各位から分科会員各位へ実施に向けての主体的な検討を指示いただきたい。

第2回分科会で提案された取組案

※第2回分科会において、各分科会員から提案された取組案・アイデアを、まちづくりのコンセプトに沿ってまとめたものです。

人が集い、交流、活動できるまち

人が集い、交流、活動できるまちを実現するため、多様な世代の住民・来訪者による地域資源や強みを活かした様々な活動を推進する。

取組案

- 地域の金融機関と連携した、金融リテラシー教育の場づくりを進める。
- 海や港が感じられるように、津観音境内での定期的な海産朝市などを実施する。
- 大門・丸之内地区でマルシェを開催し、将来的には企画運営を地元で進めることができるようにする。
- 店舗利用促進のための多様なサービス実施、他地区との合同したイベント等の開催
- 子ども、若者、大学生が集まる場所・機会を提供する。
- 学生がゼミやフィールドワーク、周辺企業との協働プロジェクトなどができる学生拠点を整備する。
- 来街者向けの空間整備を行う。
- 起業・リモートワークの拠点として津センターパレスの空床を活用し、新しいアイデアや連携が生まれる魅力的な空間を整備する。
- 大門・丸之内地区の施設、外部空間を発表の場として整備するとともに、イベントの主催・コーディネーターを養成する。
- これまで取り組んできた商店街活動（各種イベント、アーケード等の施設維持）を継続して支援する。
- リノベーション店舗やチャレンジ店舗を供給するなどして、若者のものづくり、販売などのチャレンジを支援する。
- 新名物の開発を行う。
- 実践的実験的な取組を推進し、県庁所在地として都会的なイメージを形成する。
- フォトジェニックな空間、写真を撮りたくなるような花壇、花モニュメントを設置
- お城公園、お城前公園など、津城を活かした景観を形成するとともに歴史的な価値を活かしたイベントを実施する。
- 伝統芸能、郷土芸能などの歴史・文化を活かした誇りの持てるまちづくりに取り組む。
- 害鳥被害の低減の取組として、イベント仕立てで鷹匠を活用するなど、津の歴史や風情にも合った取組を行う。
- 飲食店・名店の集積、食歩きスポットづくり、ランチの活性化を図る。
- 津城の復元に向けた活動を団体とともに連携して進める。

楽しく歩いて回遊できるまち

楽しく歩いて回遊できるまちを実現するため、道路空間の有効活用や新技術の積極的な導入を推進する。

取組案

- 大門大通り商店街の車の乗り入れなど、活性化に向けた社会実験を行う。
- 津観音付近の道路におけるマルシェ等を開催する（月1回程度）。
- 国道23号やフェニックス通りの歩行空間を活かしたイベントを企画・実施するとともに、仮設のベンチやテーブルを設置する。
- 商店街道路の公園化（芝生広場、遊具、ベンチ、Wi-Fiなどのあるくつろぎスペース）を進める
- 福利厚生の一環で企業のまち歩きを促進する。
- 路線バスの周知、バス停への愛称づけ、バス利用者への特典付与等により利用を促進する。
- 食歩きなど、歩いて楽しめるまちづくりを進める。
- 新モビリティ・自動運転等の通行路として活用する（フェニックス通りの1車線など）。
- 他拠点と大門・丸之内地区をつなぐ次世代モビリティや地区内の移動におけるの次世代モビリティの導入
- 地区内の移動におけるグリーンスローモビリティ、キックボード、コムスなどの次世代モビリティの導入
- 他拠点からのアクセスや地区内移動のための、自転車、電動キックボードなどのシェアモビリティを導入する。
- 高齢者を中心とした地区外からの来訪、地区内移動のためのデマンド交通を導入する。
- 地域Ma a Sの導入
- 津城や津観音へ行きやすいように、国道23号等からのアクセス道路の再編整備と案内・標識サインを設置する。
- 伊勢街道、津城跡、津観音の資源をつなぎ、回遊できる歩行空間を整備する。津観音及び周辺の活用を図る。
- なぎさまちに娯楽施設を整備するなどして魅力を高め、津駅～大門・丸之内地区～なぎさまち間の交通の円滑化を図る。
- ドローンを活用した空中からの映像を配信する。
- 施設混雑情報、バスロケ情報など、A Iを活用したデジタルサイネージを設置する。
- VRやARといったバーチャルの活用や、趣味やサブカルチャーの文化を活用した若者を集める取組を行う。
- eスポーツ、VR、メタバースの活用、そのための高速通信環境の整備を進める。

エリア価値の高いまち

エリア価値の高いまちを実現するため、地域らしさを楽しめる満足度の高いエリアの形成や、暮らしの場としての魅力・機能を高めるとともに、土地・建物の在り方の見直しを進める。

取組案

- 空き家・空き店舗のリノベーションの勉強会や講座などを実施する。
- 空き物件を活用して商業・業務を営む事業者に対する支援（賃料・固定資産税の補助）を行う。
- 商店街で空き物件を借上げ、リノベーションし、サブリース化して商店の集積を図る活動を支援する。
- 防災性向上、市街地整備、遊び場確保課題解決のための空き地・駐車場の活用
- 空き店舗、空き家の情報と所有者の売却・賃貸意向を調査し、見える化により不動産の流動化を図る。
- 空き物件情報をSNSなどで発信し、若者など新規出店者とテナントとのマッチングやリノベーションなどのコンサルティング、サブリース等を行う組織づくり（家守）を進める。
- 商業エリア、住宅エリアなどの土地利用を明確化する。
- 土地区画整理事業などにより、遊休地を集め、住商一体型の再開発事業など、有効活用を検討する。
- 敷地の集約化を図りながら、民間活力を導入し、市街地再開発手法などを使って医療、福祉、子育て、店舗、オフィス、住宅などの複合施設を整備するとともに、公園、歩行者専用道路を整備した災害にも強い新たな拠点を整備する。
- 地区計画や景観計画などのルール化も含めた将来のまちづくりを検討する。
- 津市全体の子育てのしやすさを高め、特に、大門・丸之内地区においても魅力を高める。
- 入居を助成することで、子育て世代を誘い込む。
- 子育てに優しいまちづくりを進める。
- 多種多様な催しができるサード・プレイスとなる全天候型広場を整備する。
- 公園の再整備により、居心地のいい、便利で清潔な空間を提供する。その際、防災面の備えにも配慮する。
- 誰もが利用するレクリエーション、スポーツ施設などの都市施設（都市機能）を整備する。
- 医療福祉、コンビニ・食品スーパー等の立地を促進する。
- 食品スーパーなどの誘致に向け、整備費や賃料の補助などの支援策を検討する。
- 住宅の整備促進
- 歴史的建造物の活用、景観づくり、ユニバーサルデザインに取り組む。
- 岩田川、堀などで水辺環境を整備する。

魅力情報が発信されるまち

魅力情報が発信されるまちを実現するため、エリア内の多様な主体が様々な媒体を活用し、地区の魅力をより多くの市民・来訪者に伝える。

取組案

- 各種マスメディアへの取材依頼を積極的に行う。
- 各種情報サイトと連携した情報掲載（グーグルマップや乗換検索サイト）を進める。
- 歴史文化や祭りなど、地域の温かさを感じられる情報発信
- 地域HP・地域アプリを構築する。

持続可能なまち

持続可能なまちを実現するため、安心・安全な環境づくりを進めるとともに、未来ビジョンの実現に向けて地区内外の様々な関係者が主体的・持続的にまちづくりに取り組む。

取組案

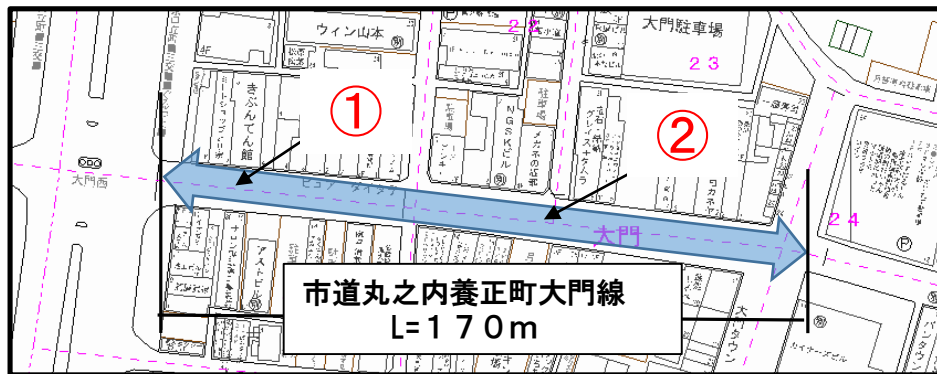
- 安全性確保のための見回り活動、防犯カメラの設置などを進める。
- 夜道の安全性確保のための駅からのアクセスや商店街での行燈の設置に取り組む。
- 地域の住民・事業所の参加、有志団体等による道路や公園の美化活動を継続し、人のつながりを広げ、まちづくり活動の土台とする。
- サークル活動やボランティア（VSP：ボランティア・サポート・プログラム）の取組を促進する。
- 自分たちのまちは自分たちで維持・保全・発展させるという意識を醸成する。
- ブロックごとに小さなプロジェクトを立ち上げる。

大門・丸之内地区における実験的な取組の検討

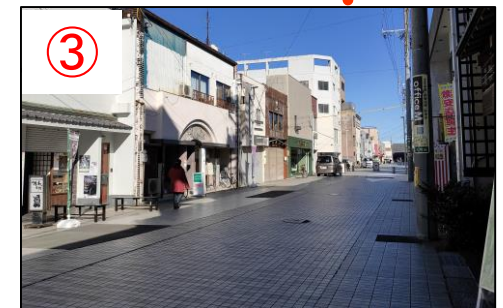
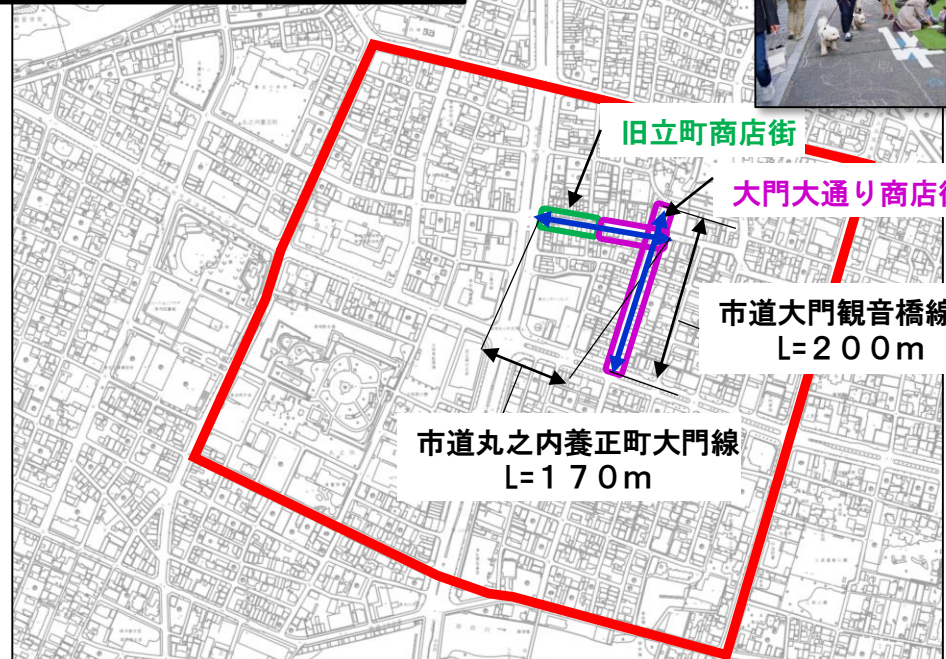
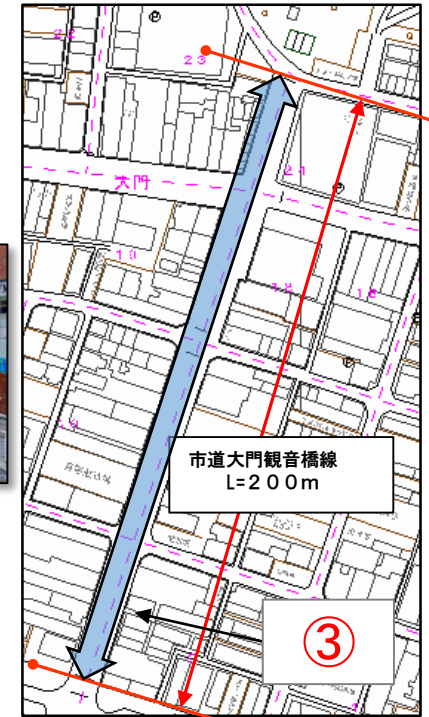
津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会事務局

取組例1 立町・大門大通り商店街内道路の利活用

- ・市道丸之内養正町大門線及び市道大門観音橋線の一部である「立町・大門大通り商店街内道路」は、従前より歩行者専用道路となっているが、当路線の車両通行を行うことなど、今後の利活用についてはさまざまな議論がある。
- ・そのため、未来ビジョンに基づく実験的な取組として、**現在の道路空間を活用した賑わい創出(キッチンカーの配置、子どもが遊べる広場等)**の取組と、**車両通行による地域への影響を確認**する取組を段階的に実施し比較検討することで、将来的な利活用につなげる。

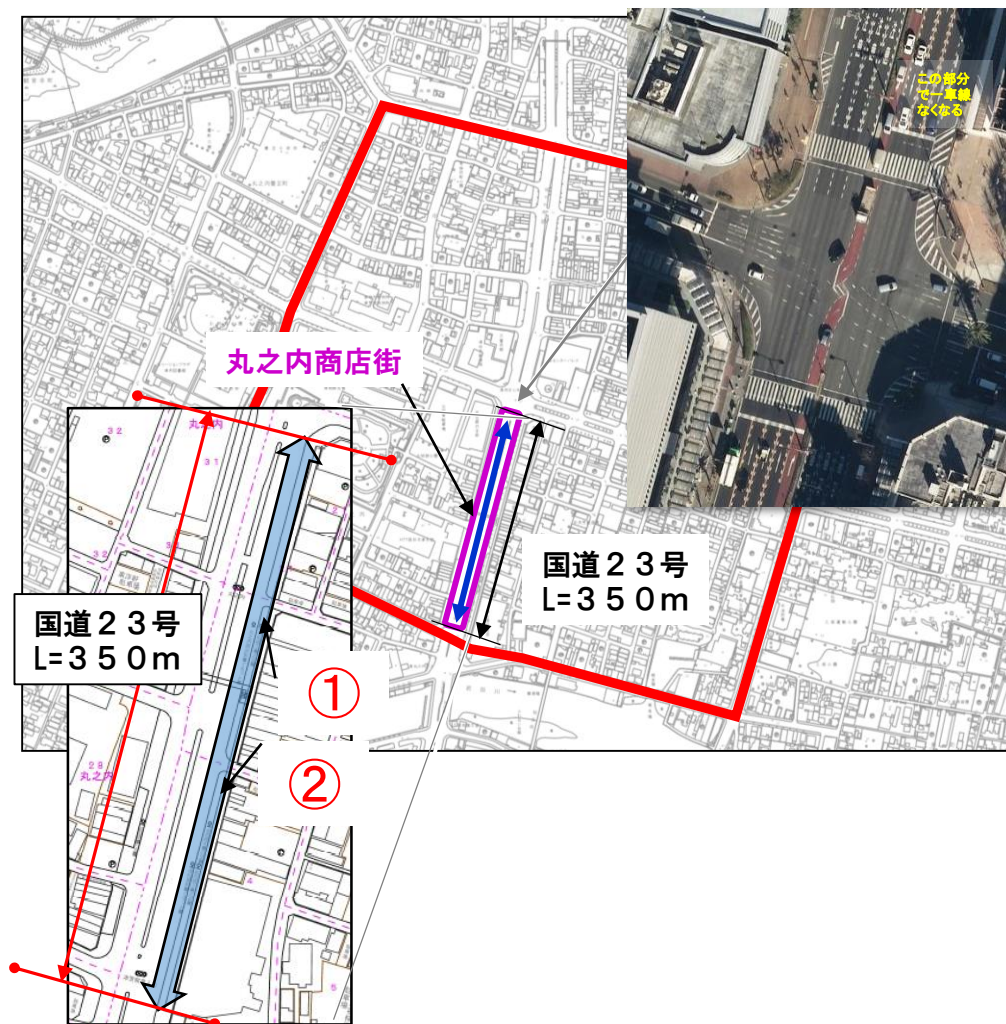


賑わい創出の実験のイメージ



取組例2 国道23号丸之内商店街エリアの道路空間活用

- ・国道23号の一部である丸之内商店街沿道については、「荷捌きスペース」の設置や、高齢者ドライバーの駐停車による商店街店舗の利用促進など、道路空間を活用した活性化が期待されている。
- ・そのため、未来ビジョンに基づく実験的な取組として、**荷捌きや駐車スペースの設置、キッチンカー等による賑わい創出**などを検討する。



エリアプラットフォームの構成 取組実施体制

エリアプラットフォームの構成案

(仮称)大門・丸之内地区エリアプラットフォーム

全体協議会

全体協議・調整の場。未来ビジョン策定委員会の構成団体をもとに構成
・取組の検討 ・今後の取組の方向性の協議・調整 ・予算・決算決定 ・未来ビジョンの改訂協議 ・情報共有

事務局

実行チーム 必要に応じて複数編成

推進チーム

- ・AP全体で進める取組の実施
- ・団体同士で連携する取組の実施

検討チーム

- ・ビジョン改訂等の特定事項の検討
- ・新たな取組の検討・提案

全体協議会構成団体から
複数の団体で構成
(団体内の若手等でも可)

構成団体

まちづくり
会社

自治会

企業

行政

商店街

市民参画者

商工団体

専門人材

A P の取組の一環として各構成団体は
主体的に独自の取組を実施

賛助会員

ビジョンに賛同し、実現に向けて取り組む意向のある

団体

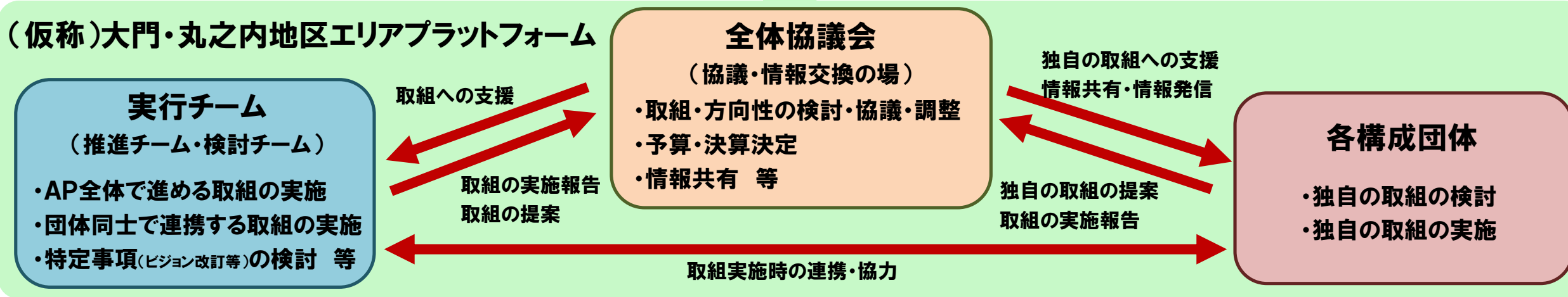
企業

市民

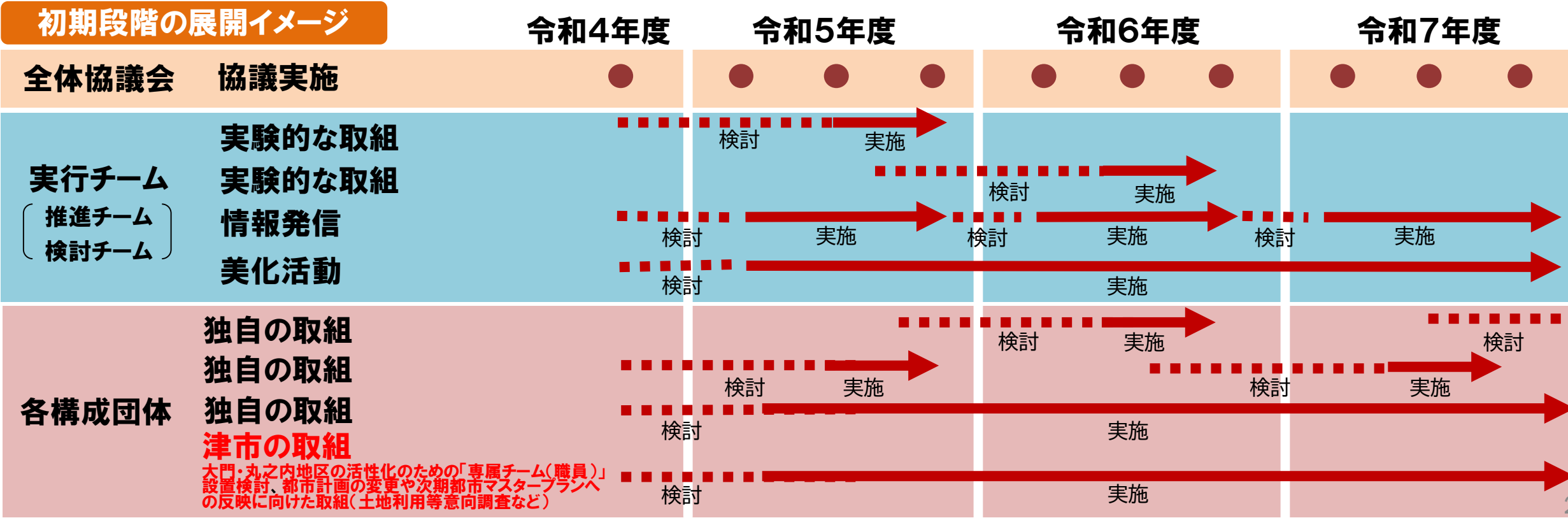
- ・情報共有
- ・取組の連携・協力
- ・取組の提案

取組実施体制・初期段階の展開案

未来ビジョンの実現に向けて取り組む



初期段階の展開イメージ



<<「未来のカタリバ」における主な意見>>
 2022年8月21日（日）開催
 参加者14名

1. 大門・丸之内地区でお気に入りの場所、おススメの場所

- 津城址・お城公園（津城跡は津市にとって大切）
- 津観音（魅力を高めようと努力していただいている）
- 観音橋（花火がみられる）
- エリア内の歴史的空間（津城跡や伊勢街道の歴史性、レトロな雰囲気の商品街と古く歴史のあるお店）
- 松菱百貨店（ワンランク上の買い物の場所、スーパーやコンビニだけではなく百貨店は必要）
- 老舗の飲食店（接待や特別な日に行くような高級店から気軽にランチできるお店まで）
- フェニックス通り（開放感のある道路空間、交通の利便性の高さ）

<課題>

- スーパー、コンビニエンスストアがない
- 地区内の公園が使いにくい。水栓が外され水が使えない、草も管理できていない、子どもが遊びにくい
- 地区内の人以外に、地区外の人を中に、それぞれ出かけやすい環境づくりが必要
- 住む場所としては、津波などへのリスクや駅が近くないことへの不便感をどう克服するか（バスをどう活用するか）
- 居住者・来訪者ともに大門・丸之内らしさが感じられ、まちを楽しめるようにする必要がある
- せっかくの資源・財産を活かし切れしていない
- 伊勢街道などの名残が見える化できていない

2. 将来の大門・丸之内地区でやってみたい活動、遊び、過ごし方

- お城公園でマルシェ、ファーマーズマーケットを開催したい。お城公園でキャンプをしたい
- 他所で行っていないイベント（子ども服交換のフリーマーケット）、エコエリアとしての活動をしたい
- 2024年に高虎サミットがあるので、それまでに津城跡をきれいにしたい
- 津観音への人の流れを作りたい
- お城をみながら、のんびりと歩き回りたい（公園や周辺の道路）
- 車を使わずに、歩きながら楽しみたい
- 楽しく食事したい
- 文化的な活動に参加したい
- 単館映画を上映するミニシアターなどの文化施設を誘致したい
- 空き地を使ってガーデニングをしたい
- 広い歩道を利用して、高齢者や障害者などが歩きやすい道づくりをしたい（子ども連れのベビーカーにもやさしい）
自転車道、駐輪場、多目的トイレなどがあると良い
- 子どもが安心して遊べる、歩ける街にしたい（探検したら面白い街にする）
- ライフステージに応じて地区内で多様な住まい方ができる仕組み・住宅を提供したい
- 不動産（土地・建物）を流動化させ、若い人がおしゃれに暮らせるようにしたい
- 高齢者を対象に、介護保険対象外の生活支援サービスを提供する事業を展開したい
- 商店街を縮小し住居地域へ転換。空き地、空き家を住宅へ転換するなど、利便性の高い住宅地として選ばれるエリアにしたい
- 環境への配慮やデジタル化など、極端に先進的なモデル的な取組を進め、その状況を発信したい
（例：ゼロカーボンバス（津駅⇄三重会館前）、電動キックボードレーン設置）
- 小規模で量販店では扱えない商材、画材、フィルム、レコードなどを扱う店、アートやクラフトに興味ある人が集まる街にしたい
- スタートアップや起業をしたい人が集まる街にしたい
- 若者がチャレンジできる街として、空き店舗などを利用したトライアル店舗、起業コンペなどを実施したい

3. 大門・丸之内地区において、どの場所を、どのように生かすと良いか

- <場所>
- 【津城・お城公園】
- 津市のランドマークである津城の復元（ARを使うこともOK）
 - 市民の憩いの場となる花の公園にリニューアル
 - 開かれた市民パークとする。イベントなどに使いやすくする。
- 【津観音】
- 八の市参りなどの人の流れを作る取組
- 【公園】
- キャンプができる場をつくる、子どもが走り回れる公園をつくる。
 - 利用者視点で公園を管理する。
- 【店舗・商店街】
- 大門地区に素敵なレストラン、カフェを開業する。
 - 小規模店舗の募集（フィルム、レコード、クラフト、アート関連のお店、アンテナショップなど）
 - 魅力的な店が増えるように、空き店舗でのトライアルへの支援
 - 観音前の大門タウン周辺を重点地域として、地権者と交渉してリニューアル
 - 各店舗の情報発信の強化。インスタスポットなどの整備

【津センターパレス】 ○津センターパレスの利用について考える（過去のアイデア：高齢者用住宅、高等教育機関〔三重短期大学＋管理栄養士コース〕） ○空きスペースなどを利用し、小規模なミニシアターの誘致 【道路空間・駐車場】 （街区道路） ○お城をみながら歩ける道づくり。 ○地区内は歩いて移動できるようにする。細い道はゴルフカートや時速 30km 以下の電動車のみにする。 ○レンタサイクルを行う。 ○商店街に来た人が、歩いて回るのに便利のように、駐車場を整備する。 （国道 23 号、フェニックス通り） ○国道 23 号、フェニックス通りは、地区内は地下道にして、地上部は芝生広場にする。 ○三重会館前交差点に空中歩行路（ペDESTリアンデッキ）を整備し、道路による地区内の回遊性、一体感を高める。 ○大学生、高校生が利用するまちにするために江戸橋からのアクセスを便利にする。 ○夜に便利に飲みに来られるように、津駅とのシャトルバスを設ける 【その他の場や施設づくり】 ○勉強できる場をつくる。 ○出かけるきっかけとなる場所をつくる。 ○地区内の空き地をガーデニングエリアにする。 ○川・水辺をつくる ○障がい者施設、高齢者施設（有料老人ホーム）など、人が住む施設の立地（交通の利便性も良く、介助者の訪問もしやすいため） ＜方策＞ 【イメージの向上】 ○ポジティブな情報を発信し、イメージを高める方向に持っていく 【夜の魅力づくり】 ○イルミネーション、ライトアップ ○夜のマルシェ、夜店を出す。 【土地活用の活発化】 ○土地や空き店舗の売買や賃貸を活発化させる。貸したい人・売りたい人と使いたい人のマッチングを行う。 【安全・安心のまちづくり】 ○スマートセキュリティを活用し、子どもが安心・安全に遊び、探検できるまち、子どもを連れてぶらぶらできるまちにする ○災害に強いまちづくりを行う。住んでよい地区なのかどうか明確にする。 【企業等との連携】 ○百五銀行などを中心に、企業が協力し、まちづくりの動きを起こすための方法を考える。（旧態依然ではなく、新たな体制を作るべき）
--

「公共施設等に設置した意見箱、ホームページの意見フォームなどに寄せられた意見」

○テーマは「人が集い、歩き、時を過ごせるエリア」 ○住んでいる人には住みやすいだけではなく地域に誇りを感じられ、事業を始めたい人にはメリットを、来訪する人には雰囲気を楽しむ体験を提供できる空間にすることが、街のサステナビリティにつながる。 ○津の市街地に出かけよう、大門や丸之内に行けば、誰かに出会える、何か得られる、市民にはそう思ってもらうことが必要。 ○特定の地域のテーマに合った事業を希望する事業者、スタートアップ助成やアドバイスをすることも有効。 ○どんどんチャレンジしていかないと、楽しみがなく若い人は外に出て行ってしまう。 ○人が歩きたくなるまちづくり。エリア内に店舗等が連なれば人はおのずと集まってくる。 ○業種や年代を超えた街づくり目指すべき。そのためには、空き地を利用して遊歩道（プロムナード）を設置すべき。 ○万歩計の貸出、無料駐車場の開設、遺構の案内板設置、飲料水の整備等を行い、遊歩道を活用することで、自ずと多くの高齢者施設や保育施設が集えるシステムを構築する。 ○家族連れ、若い人、老人がいこえる空間（公園、ベンチ多数）が欲しい。 ○ひと休みするベンチ、歩いて見て回って欲しいなら休憩できる場所も必要。 ○お城公園は、子どもが安全に遊べる噴水のある公園に整備するなど、家族連れがくつろげる場所になるといい。 ○カラス、ヒヨドリの糞害が気になる。時間帯によっては電線の下はとても歩けない。無電線化などの対策もお願いしたい。 ○人が集まるエリアにするには、まとまった駐車場の整備が必要。広い無料駐車スペースが必要。 ○公共交通機関を使い、歩きをメインにするなら、食べ歩きなどその場で消費できる内容が良い。通いたくなる店、施設、イベントを街全体で行い、おもてなしをする必要がある。 ○市内のコミュニティバスの運行、商店街、お城公園、観光ボランティアの協力で地域案内をしてもらう。 ○津市の唯一の百貨店である松菱の存在は大きく、閉店することがないように支援が必要。 ○施設の外壁や歩道の素材を雰囲気のある色調や素材に統一するとか、目指すべき街の雰囲気に合わせて「額装」する。 ○この地区に市営住宅建設を考える。1 階は店舗、2 階に商業関係の施設、ジムやスタジオ、学習施設等、3 階からは賃貸住宅。郊外の戸建てに住む高齢者が、移住して住めるゾーンも設けることにより、空き家対策の問題の解決に効果がある。 ○大門・丸之内エリアの命名権を販売、そのお金で地元のタクシー会社と会社を作り、大門・丸之内で飲食した人を駅まで無料送迎する。
--

- 観音公園を住民の憩いや交流の場、市民や事業者がチャレンジできる場として提供するとともに、管理を民間委託することで、新たな都市型コミュニティを形成するエリアとする。
- 三重交通バスと連携し、大門・丸之内エリアを通るときは、郷土芸能の曲を流すなど、来てみたいという意欲を促進する。
- 商店街の道路に可能な限りベンチを置いて、エリア全体を公園化する。
- 他の地区の官民連携エリアプラットフォームと交流し、他の地区と相互に出品しあうなどを検討。
- 若者が集まり賑わいを生み出し活力のあるまちづくりの為に、スケートボードをすることができる場所を整備する。
- ホテル津センターパレス前の歩道に、江戸橋にあるような避難案内のサインボードを設置する。
- 無電柱化・無電線化。地上の電柱・電線は景観を損ねている。台風に弱く、地震の際は倒れた電柱や電線が通行の支障になっている。
- マンションがスーパーと直結している。さらにそこに整備された商店エリアも直結している。
- 公園がきれいに維持される。図書館がある。
- 景観よく、写真を撮りたくなる街並み。
- イベント、観光スポット、グルメスポットなどの情報が共有できる施設があるといい。大門に来た人に情報を紙に書いてもらい、種類ごとにボードに貼ってもらうことで、隠れたおいしい店などの素敵な情報が増え、便利になるのではないか。
- 人々が行きたくなる、魅力のあることを行う。毎月違うイベントを行う。お年寄りも若い人も楽しめるイベントを行う。
- 子育てお悩み相談会や、手作りワークショップなどをすれば、さらに大門に人が集まり、津市に住む人の笑顔も増える。
- 大門にゴミ箱をもっと設置する。ポイ捨て問題を解消し、居心地の良い大門になり、人通りが増える。
- 今住んでいる人がのびのびと、安心して暮らせるように、ユニバーサルデザイン・バリアフリーの環境を整える。
(車いす用トイレの設置、階段がある所にスロープをつける、図や展示のある施設の案内表示をつける、など)
- 大門らしさ(商業・津観音・文化)を残しながら、子ども・若者向け施設を建てる。
- 商店街の空き店舗を活用すれば、商店街のイメージが良くなり、人も来て、一石二鳥だ。
- 空き店舗等のスペースを活用し、芸術祭を開催する。空き家や空き店舗のシャッターにシャッターアートなどをする。
- 空き店舗を利用して、店などを一つでも開いてみる。商店街でしか買えない物を出し、スーパーに負けない商店街をつくる。
- アーケードを復活させた方が良い。雨に濡れずに風邪も引かなくなる。夏の暑い日、熱中症の対策もできる。
- 大門にしかないものをつくりながら、スーパーなどのようなどこにでもある店も作る。普通+魅力が必要。
- 津市の魅力や大門の魅力、文化や歴史などが詰まった建物をつくる。歴史感がある建物をつくる。
- 津観音をアピールする。具体的には、広告やCMを出す。伊勢神宮に津観音に関する情報を貼る。
- 観音公園を活かすために、新たな遊具の設置をしたり、ステージを活用する。
- 観音公園を綺麗にし、暗い雰囲気 of 建物に絵を描き、明るい雰囲気に変える。花植えする。津ヨットハーバーにあった交通公園をつくる。
- 今ある駐車場を活かしながら、無料化して、きれいにする。

津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会委員名簿

(組織名50音順)

任期: 令和4年5月26日～令和5年3月31日

NO.	組織名等	役職等	氏 名
1	株式会社まちづくり津夢時風 津商工会議所	代表取締役社長 副会頭	ツジ マサトシ 辻 正敏
2	敬和地区自治会連合会	会長	オカダ マサユキ 岡田 正幸
3	養正地区自治会連合会	副会長	ワカハラ サトル 若原 暁
4	公益社団法人津青年会議所	副理事長	カワグチ トシフミ 川口 敏史
5	津市大門大通り商店街振興組合	代表理事	ミヤケ キミコ 三宅 公子
6	津市大門商店街商業協同組合	代表理事	クロダ レイコ 黒田 麗代
7	丸之内商店街振興組合	理事長	ジケ ミツヒロ 寺家 光弘
8	岡三証券株式会社	津支店 理事・支店長	オザキ ススム 尾崎 晋
9	株式会社NTTファシリティーズ	東海支店長	キシタ マナブ 木下 学
10	株式会社津センターパレス	代表取締役専務	フジマキ カズヒロ 藤牧 和弘
11	株式会社津松菱	常務取締役 営業本部長	カワイ タダシ 川合 正
12	株式会社百五銀行	本店営業部 副部長 兼 大門町出張所長 兼 津市役所出張所長	ナカムラ シンゴ 中村 慎吾
13	三交不動産株式会社	開発事業本部 賃貸事業部部長	ツジ ノブヒサ 辻 伸久
14	Hotel 津 Center Palace	総支配人	カワグチ ノリカズ 川口 範一
15	三重交通株式会社	取締役	カミヤ アキヒコ 神谷 昭彦
16	公募委員		イワタ エリ 岩田 英里
17	公募委員		オクダ ヒロキ 奥田 博貴
18	公募委員		ヒラニシ アスカ 平西 明日香
19	国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所	副所長	フジハラ ヒロノリ 藤原 弘典
20	三重県	県土整備部次長	フルサワ タダシ 古澤 忠士
21	津市	都市計画部長	ミヤタ マサシ 宮田 雅司
22	津市	商工観光部長	アクモリ ミノル 福森 稔

※令和4年9月27日現在

津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会 オブザーバーについて

津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会では、オブザーバーとして、専門的な知識又は経験を有する有識者等のほか、各分野に応じた意見又は助言をいただける方々に対し、必要に応じて策定委員会及び分科会の会議へご参加いただき、意見又は助言をいただく予定です。

なお、現時点におけます下記のオブザーバーの方々のほか、今後も委員の皆様のご推薦等をはじめ、当取組にご協力、ご参加いただける方々に広くオブザーバーとしてご参加をいただくことができるよう柔軟に進めてまいります。

専門的な知識又は経験を有する有識者等

(敬称略)

NO.	組織名等	役職等	氏 名
1	三重大学大学院工学研究科	教授	アサノ サトシ 浅野 聡
2	三重短期大学生活科学科	教授	オノデラ カズシゲ 小野寺 一成
3	独立行政法人 都市再生機構 中部支社	都市再生業務部 まちづくり支援室 室長	ミナミギ ヒロカズ 南木 宏和

その他意見又は助言を求める企業等

NO.	組織名等
1	中部電力パワーグリッド株式会社
2	東邦ガスネットワーク株式会社
3	大和ハウス工業株式会社
4	三重県警察津警察署
5	西日本電信電話株式会社
6	一般社団法人津市観光協会
7	学校法人藤田学園
8	津商工会議所青年部

※令和4年9月27日現在